

感染症・熱中症対策の徹底を！

新型コロナウイルス感染症が収束に向かいつつあると思っていたのですが、6月末から感染が再拡大に転じ、第7波と言われる流行の波が全国的に広がっています。

〔新規感染者数の比較〕 1週間で2倍以上の増加！

	7/3(日)	7/10(日)	増加の状況
全国	23,299人	54,068人	2.32倍
新潟市	56人	130人	2.32倍

大形中では、日常の学校生活で「マスク着用」「常時換気の確保」「アルコール手指消毒」を徹底することで、校内での感染拡大防止に努めています。これによって、学校生活に過度な制限を加えず、生徒にとって必要な、意義のある教育活動は力強く推進するという姿勢を大切にしてきました。そして、この姿勢はこれからも変わりません。

充実した学校生活を維持するためには、生徒・教職員ともに改めて感染防止対策の徹底に努めていくことが必要です。これまで以上に「高い意識」と「確実な実行力」を全員がもちながら毎日を過ごしていくことが、感染拡大防止の鍵となります。

大空祭の活動が始まりました。そして、県大会が目前に迫っています。これらをはじめ、中学校での貴重な学びや活動が保障されるかどうか、それは私たちにかかっています。3つの対策の徹底に努めましょう。

感染防止とともに、熱中症への対策も怠ってはいけません。新潟市内でも、熱中症によって救急搬送される児童生徒が毎日複数いると聞いています。「運動時にはマスクを外す」「可能な限り長袖の体育着は脱ぐ」「こまめに水分を補給する」といった対策も徹底していきましょう。



エアコンをつけていても、「常時」換気を行おう！

基本はマスク着用！でも、熱中症には気を付けて！

大形中学校 校長室だより

夢・希望・未来

令和4年7月12日
第10号

生徒の手で見直すから意味がある！

本日、「学校生活の心得」の見直しについての学級審議が全学級で行われました。熱心に、そして真剣に話し合う生徒の姿に、改めて大中学生の素晴らしさを感じました。

自分は、生徒会による「心得の見直し」の取組に大きな期待をかけています。そこには理由があります。

学校の主役は生徒です。主役である生徒自身が学校づくりに参画して、よりよい学校を生徒自身の手によって創り上げることは当然のことであり、この意識と実践力を全校生徒にもってもらいたいのです。

このときに大事なことは、多くの生徒が「確かにそうだ」とうなずける最適解、納得解を求めようと努力することです。一部のわがままではなく、大中学生全員にとって意味のある、そして「目指す大中学生像」に迫ることのできる心得を創り上げることは、まさに大中学生会の「自治」そのものです。

ここでは、真剣な議論や検討を経て「自分たちの責任で決める」ことが、大中学生に求められることとなります。自分で決めることのできる「自由」が、単なるわがままとならないために、決めたことに対する「責任」を自分で負わなければなりません。そして、最終的に427人の合意形成によって「心得」の案が完成することになります。『責任』を伴った『自由』によって『自己決定』することで、大中学生全員にとっての『最適解』であり『納得解』である『学校生活の心得』を創り上げる」ことが、大中学生が目指すべき自治の姿の一つとなるはずです。

校則や生徒心得を最終的に決める権限と責任は校長にあります。その権限と責任があるからこそ、決定までの過程の大半を生徒に委ねました。完成した校則や心得も大事ですが、実は完成に向けたプロセスにこそ、生徒にとって大切な価値が含まれると考えているからです。それは、将来をたくましく生き抜く力につながるものです。

ぜひ、校長である自分を納得させることのできる、大中学生427人の思いのこもった心得を創り上げてください。期待しています。



心得についての疑問を仲間と共有。活発な話し合いができました！さすが、大中学生！